

「みやぎお魚だより」 第3号

更新日：平成24年10月17日（水）



○担当：宮城県水産技術総合センター企画情報部

● 仏日海洋学会調査団を迎えて

仏日海洋学会の代表団とブルターニュ地方のカキ養殖業者の方々が、平成24年10月1日～4日にかけて、被災地である岩手県と宮城県を調査されました。

その主な目的は、フランスの各種団体から両県に多くの支援を行ったことから、その復興状況の調査と今後の交流拡大について意見交換を行うというものです。

宮城県内では、気仙沼市唐桑、南三陸町および石巻市万石浦のカキ養殖業者と意見交換を行い、さらに当センターにおいて試験研究施設の被災状況を調査されました。

フランスから送られた顕微鏡やプランクトンネットが漁業者の復旧のために役立てられていることに対して、大いに満足されるとともに、早期の復旧に期待を寄せられておられました。

さらに、10月4日には「三陸の沿岸漁業の復興を目指す日仏シンポジウム—特に津波被害からのカキ養殖の復興に向けて」が塩釜市で開催され、当センターから「津波被害からの復興状況」を報告しました。

その他の報告が行われた後で、意見交換の場が設けられフランス代表団の方々から様々な提案を頂きました。

また、フランスでもホヤが食べられていることが紹介され、日本での食べ方や養殖方法についての質問がありました。

フランスでのカキ販売では、ワインと同様に産地証明としてラベリングされているとのことで、日本側の出席者も大変興味を感じました。



万石浦のカキ養殖場の視察



塩釜市で開催された日仏シンポジウム